

10

マレーシア/ジョホールバル

総面積: 220km² / 人口: 150万人 /
人口密度: 6,909人 / km²



都市の現状

ジョホールバルは、マレーシア半島の南端に位置するマレーシア第二の都市である。シンガポールとジョホールバルをつなぐ橋により、二国間の相互往来が盛んである。2006年、イスカンダルマレーシアと呼ばれる大規模開発計画が開始された。この都市は、隣国のシンガポールの高い経済成長により、急速な発展を遂げ、さらに国際都市へと発展することを目指している。急激な都市化により、家庭用水及び工業用水の需要が増加しつつある。

スマートシティ行動計画

ビジョン：ジョホールバルスマートシティを強力で持続可能な国際都市へと発展させる。

重点分野：優れたガバナンス、質の高い環境

Project 1：意思決定、現状調査及び計測のためのイスカンダルマレーシア都市観測 (IMUO) ツール
十分な情報に基づく意思決定を通して計画承認プロセスを改善し、データを照合、更新、分析、管理及び発信するための中央データセンターを開発する。

Project 2：水資源及び配水の管理
年間を通し貯水量を20%増加させることで水の持続可能性を向上し、技術革新を通して新たな水資源を獲得する。

取組み状況

Project 1

- 各国プログラム行動計画 (CPAP) に基づき、国連開発計画 (UNDP) と共に実施する開発計画の最終年
- 2019年における重要な成果：IMUO プラットフォーム及びデータ共有に関する IRDA と主要なステークホルダーとの共同所有権の確立
- IRDA は、イスカンダルマレーシアに関する持続可能な開発目標 (SDGs) のローカライズを計画。2019年末までの完了が目標
- IMUO のフェーズ1は、2022年までの完了が目標
- 導入に伴う課題：
 - 正式なデータソースを補完するための第三者情報源による信頼性の高いデータ
 - 政府機関間のデータ共有を向上させる方針



Project 2

- IRDA は、連邦水規制当局と協力し、2019年にイスカンダルマレーシアの特定エリアで先行導入するスマート水道網管理のプラットフォーム/ツールを開発中
- このプラットフォーム/ツールは、複数の下部機関及びGLC からもたらされる水処理、配水、水資産、管理及び保守データを全体的かつ効率的に網羅する予定
- 同時にIRDA は、水規制当局と協力し、増加し続ける水需要を補うため、廃水を処理して非飲料水として販売及び使用するための規制を策定中



スマートシティ最高責任者

Ms. Maimunah Jaffar / 技術&イノベーションリーダー / Email : maimunah @irda.com.my